

## 学校給食関係者と農業者との「顔の見える関係」を構築！

石川農林総合事務所農業振興部



産地見学会の様子

近年、食の安全に対する関心の高まりから、地産地消の取組が活発になっており、学校給食においても地元食材の使用が増えています。

白山市にある29の小中学校においても、平成22年度の学校給食における地元産野菜使用量は、平成20年度に比べ品目数は43品目と12品目増え、総重量は23トンと約3倍となっています。

こうした中、当事務所では、小中学校給食関係者と地元食材を提供する農業者の方々が、互いの理解を深め、更に一歩進んだ食育の取組につなげていきたいという考えのもと、10月13日、若手農業者と当事務所からなる石川農業青年会議、白山市地産地消課との共催で、「地元農産物の産地見学会」と「学校給食に対する意見交換会」を開催しました。

産地見学では、14人の栄養教諭に参加いただき、青年会議の会員である(株)六星(橋爪町)の直売所及び加工場、(有)くらす農産(乙丸町)のキャベツほ場、山本農園(西米光町)のこまつなほ場において、会員から直接説明をいただき、収穫体験を行った後、意見交換会を行いました。

今回の交流を通じ、栄養教諭の方々には、同じ市内で若い農業者が地元農産物の生産に日々努力している姿やその想いを知っていただき、参加した青年会議の会員10人も、学校給食のメニューの立て方、食材確保のスケジュール、納品方法など、実際の学校給食に食材を提供する現状を知っていただくことができました。

今後は、学校給食への食材提供における課題を解決するために、生産農家のリストアップや納品方法等を更に検討するほか、栄養教諭と農業者との「顔の見える関係」を構築しながら、将来の消費者である小中学生に対し、地元農産物や農業に対する理解を深める食育活動を実施していきたいと考えています。

問い合わせ先：石川農林総合事務所農業振興部（076-276-0371）